opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2013年12月)

信仰年を終えて、信仰は日々の行動に、どう表わされるべきであるか、また、イエス・キリストが教会に残した聖性の手段という助けを頼りるということを考察する。

## 2013/12/11

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 教皇様の閉幕宣言で信仰年が終わり ました。この一年間、私たちは、神 の御助けの許、adáuge nobis fidem! [i] 信仰を増してください、と主にし つこく願いつつ、キリスト信者とし ての生活のベースであるこの対神徳 と共に、希望と愛、信心を深めるよ う努めました。この恩恵の期間が終 わった今、頂いた恩恵に後押しされ て、天国に導くこの道で日々の歩み を続けるよう励みましょう。信仰の 師であり、神と緊密に一致しておら れる聖母にはせ寄り、御子と教会に 忠実でありたいという私たちの望み が効果的であるよう、助けていただ きましょう。

教会の教導職の公文書一最新の回勅 Lumen fídei一は、新約聖書に見られ る信仰の源泉の基本的な特徴を二つ 強調しています。聖パウロが、fides ex audítu [ii] 信仰は、教会で読まれ 受け入れられている神のみことばを 聞くことから始まると明言していま す。一方、聖ヨハネは、「まことの 光で、世に来て全ての人を照らす | 「iii」ため、人となられた神の御子イ エス・キリストが、神のうちに秘めら れている神秘を知ることができるよ うにしてくださると教えています。 光はことばを、ことばは光を定義づ けますから、両者は表裏一体となっ て私たちが宣言する信仰を支えま す。ですから、「信仰固有の明白な 特徴を取り戻すことが緊急です。と いうのも、信仰の炎が消滅すると他 の光も全て輝きを失っていくものだ からです。| [iv] 子どもたちよ、聖 霊が教会の教導職と聖人たちの生き 方を通して、私たちを絶えず燃え立 たせてくださることに感謝し、その 教えを受け入れ、慰め主の導きの許 に洗練された日常生活を送ることに しましょう。

先月半ばに「聖ホセマリアと神学的 な思考」についての学会がローマで 開催されました。聖人たちの説教や 証言が、信仰を深め、教理の学問的 説明を深めることにつながるといれることにつから、聖ホセマリアとそのの学れました。この当立されました。この学者には、1928年10月2日、神の創立を、は、1928年10月2日、神との特異性をリージの特異性をリージを表したのが表した。神はこのメッセージを、キーはこのメッセージを、まりまりである。 によるようお望みになったのです。

の行動と全ての人たちに反映させる ためです。

出発点は、教会にはイエス・キリストによってもたらされた聖性の手段が全て備わっていると確信することです。回勅Lumen fídeiが要約しているように、中でも際立っているのは、秘蹟にあずかること、神と教会の掟を実行、祈りです。

秘跡は、キリストの行為であり、 国の栄光に包まれたキリストの行為であり、 と主されたもの、 と主が大々を聖化すると、 を聖化するが、 を聖化するが、 を聖化するが、 を聖化するが、 を聖化するが、 を聖が、 を聖が、 をいいのでは、 がまますで、 はいでするが、 はいのでは、 にいるが、 はいのでは、 にいるが、 かったら、その愛に本当の力はなく、現実のものでもないことになります。」[v]

聖ホセマリアの教えを思い起こすことにしましょう。青年時代から抱いておられたことです。「神は絶えず直ぐそばにおいでになることを確らながある。神が星の輝く空のかなたにおられるかのように生活し、遠くにおられるとを、私たちはばにもおられることを、私たちはく考えないでいる。

神は愛情深い父としてかたわらにおられ、世界中の母親たちが自分の子供を愛することができる以上に、私たち一人ひとりを愛し、助けの手を差し伸べ、霊感を与え、祝福し…、赦してくださる。(・・・) 私たちの父、それも実に父親そのものである神なる御父は、私たちの傍らにおられると同時に、天においでになる主

であることを深く確信し、身にしみて感じる必要がある。」[vi]

これは特に、ゆるしの秘蹟を受けるとき、ご聖体を拝領するこの確信がまた。信仰によることと確信がはいることを実感したされて、ゆることを実感に落でていることを実際に満たされているとを実際に満たされたという。では、出生のですがあるとがですがあるという。では、私は倦むことなく勧めます。

これらの考察を自身の内的戦いに当 てはめましょう。私たちは弱さや過 失があるにもかかわらず、聖人にな ることができるし、そうならなけれ ばなりません。神がイエス・キリスト において、私たちをご自分の子ども として神のいのちの中に入り込む手 うにと招き、そのためにあらゆる手 段を与えてくださるからです。秘跡の恩恵と祈り、神の掟に従うこ場にでする場合です。ではいる義務を出まれる義務を出ます。「十戒は否定に果たしている義になります。「十戒は否定はあります。」は否定はありません。自分のはいいでは、神の慈しみを存分に対し、神の慈しみを存分に享受するのです。」「viii」

創立者はこう教えています。「内的 生活は感情の問題ではありません。 天国で愛なる御方が待ってられる ではあていまられるので ので明確に認識するなられる を明確に認識にわたって を明確に認識にわたって を明値が分なるとれる は何と大いなる光があることが は何と大よいまる は何と大よいません。 れたちの はればなりません。 なければなりません。 なければなりません。 なければなりました を、神のすべての 恩恵、 もればなりまり もればなりまり さと光、奉献の甘美さ、を受け止めるタンクのようにすべきです。暗闇に変われ、辛酸をなめるときには込うの恩恵の清い流れにのとればなりません。盲目の見えればなりません。盲目は見えるりません。なければなどももればないでも私には見ればなってもの聖心から流れ出る命の水どを知って私たちは戦いに堅忍することができるのです。」[viii]

そして、他の人々も信仰の小道を迅速に歩むよう助けることがで見るでまるです。事実「信仰はイエスを見って、イエスの表示で見るではなざして見るすることがして見るするととがしていまながしていまながに参与するとしていまた群集をそれましてより、その教いのみ業を続けるのとしているのもにない、その教いのみ業を続けるのとしています。

です。私たちの使命は、具体的に、 人生の途上で出会う全ての人々を、 より近しい人から始めてイエスに近 づかせることです。異教社会を変え た初代信者はこのように振舞いまし た。

聖ホセマリアは、昔、説教で信仰に おける初代の兄弟たちの模範につい て話しました。「あまり形成されて いない人たちでしたが、彼らは殉教 と不条理な死について知っていまし た。しかし、世を救うキリストの協 力者としての役目を受け入れ、異教 を倒し、この世をキリスト信者の血 で満たそうと出かけます。まもな く、かつての迫害者で無駄骨を折っ ていたサウロが、宣教と信仰宣言ゆ えに光栄ある拷問を受ける仲間に加 わることになります(使徒言行録9.5 参照)。皆が、清さでもって異教社会 の汚れを拭い去り、一節度や慎みな どの小さな諸徳の実行によって一当 時の社会の浮かれ騒ぎに抵抗しよう

と(・・・)、出かけます。彼らは古代世界の中心ローマにまで入り込んでいったのです。そこでどんなことを成し遂げたのでしょうか。歴史が答えてくれます。皇帝の座は崩れ去りました。しかし、20世紀を経た今もペトロはローマの司教であり続けています。」[x]

今、新たな福音宣教に挑んでいる私 たちも彼らと同じ希望に燃え立って いなければなりません。Non est abbreviáta manus Dómini[xi] 主の 手が短くて救えないのではない。し かし、聖書の素晴らしさをあらため て強調するための信仰に満ちた人々 が必要です。先日、教皇様は使徒的 勧告Evangélii gáudium を発表なさ いました。これは新たな福音宣教に ついてのシノドス代表司教诵常会議 での結論に基づくものです。福音官 教の偉大な事業を推進する私たちに 新たな光を与えるものですから、ぜ ひこの文書を読んでください。

今月の12日のグァダルペの聖母の祝 日に思いをいたさないわけにはいき ません。その日は、聖ホセマリアが 1931年に一聖書の言葉を通して一神 の教示を受けた記念日です。オプ ス・デイが大変な困難に見舞われて いたときでした。創立者は心の奥深 くで、inter medium móntium pertransibunt aquae[xii] (主は泉を 湧き上がらせて川とし)山々の間を流 れさせられた、という言葉を聞いた のです。そして、個人の生活、そし て教会と全人類の生活における神の 王国の建設を阻もうとするあらゆる 障害を乗り越えたのです。これこそ 「世に打ち勝つ勝利、私たちの信仰 です。」「xiii」こうして私たちは創立 者が熱望していたことを実現するこ とができます。創立者が、オプス・ デイ創立当初から、言葉とペンで regnáre Christum vólumus! キリス トが支配されますように!と繰り返し ていたことを知っています。

今日から主のご降誕を準備する待降節が始まります。この期間は一御子を世に送られた父なる神の優しさと慈しみにあらためて驚嘆しつつ一何よりも聖書を読み、黙想することにおいて、いつも神の光とみことばを受け入れる望みを新たにするのに役立つでしょう。

これらの祝日の始まりは無原罪のマ リアの祭日です。マリアは信仰と希 望の教師であられ、どのように神ゆえに隣人を 愛し、とができるのかを示す感情を するこマリアは、のみお使いを 完全に主のためにのみお使い愛情を ました。天の母に子としての愛情を はしてより頼みつつ、間近にあましてより頼みである。 質けてより頼みである。 質けてより頼みである。 では、の祭日の準備に勤しみました。 う。

教会と教皇様とその協力者、私のもろもろの意向、現代の人々が精神的、物的に必要としていること、全

てのためにもっと寛い心でお願いしましょう。世界中の多くの人々が被っている物的、霊的な困難一時々、本当の悲劇がある一に、決して無関心を装ってはなりません一ありがたいことに、そういうことはないことを確信しています一。

今月、オプス・デイの記念日が幾つかあります。その中のひとつに1953年、聖マリア・ローマン・カレッジの創設のです。オプス・デイの歴史的な全ての記念日を神に感謝しましょう。[xiv]

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2013年12月1日

[i] ルカ17,5.

[ii] □ − マ 10,17.

[iii] ヨハネ 1,9.

[iv] 教皇フランシスコ、2013年6月 29日回勅Lumen fídei, n.4.

[v] 同上 n.17.

[vi] 聖ホセマリア、『道』267番。

[vii] 教皇フランシスコ、2013年6月 29日回勅『Lumen fídei』, n.46.

[viii] 聖ホセマリア、1974年2月17日 家族の集まりでのメモ

[ix] 教皇フランシスコ、2013年6月 29日回勅『Lumen fídei』,n.18.

[x] 聖ホセマリア、1937年7月26日説 教のメモ

[xi] イザヤ59,1.

[xii] 詩篇104・10

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-12yue/ (2025/12/16)